

令和5年度事業実績報告書

社会福祉法人 椎原寿恵会

佐賀事業部

<特別養護老人ホーム 真心の園>

令和5年1月に旭ユニット10床の再開し、長期入居140床満床とショートステイ10床の稼働率アップを目指し取り組んだが、職員の退職者が多く150床での運営を継続することが困難となり、令和5年12月にショートステイ10床を一時休止した。その後、介護医療連携センターと密に連携しながら、長期入居140床満床を目指し職員一丸となり最優先に取り組んだ結果、令和6年3月に140床満床を達成することができた。しかし、入居者の高齢化・介護度の重度化が継続しており、年間47名の方の永眠や長期入院による退居があり、最終稼働率は93.6%となり、目標にしていた96%を下回ってしまった。

令和6年度も更に介護医療連携センターとの連携を深め協力し、140床満床の継続を目標に待機者を確保するとともに退居が出た場合でも空床期間を最小限にとどめ、次の入居者を早期に案内できるように努める。また、入居者のケアに従事する介護職員の現場の方では、体調不良者の早期発見・早期対応に努め、長期入院者を極力少なくするよう多職種連携をさらに深め、主治医の協力を適切に得ながら対応し、稼働率の向上を目指す。

<真心の園ショートステイ>

年間を通し安定した利用者数の獲得に向けた取り組みを実施したが、職員の退職が相次ぎショートステイを令和5年12月に休止した。最終実績としては年間平均5.1名、稼働率51%だった。令和6年度は人材育成に力を注ぎ、人員体制を整え、早期にショートステイが再開できるよう努める。

<デイサービス事業>

(真心の園デイサービスセンター、鳥栖市中央デイサービスセンター共通)

・中期経営計画の目標達成に向けサービス内容の見直しや営業活動等を行っていたが、職員の退職により慢性的な人員不足に陥り、結果柔軟な受入れ体制確保が十分できなくなったことも影響し、今年度目標稼働率の達成はできなかった。介護医療連携室・他居宅事業所との連携・営業活動にて新規利用者の獲得はできているが、同程度の利用中止者も発生している。来年度は更なる連携を図り稼働率アップを目指していく。

・システム移行が予定より時間がかかってしまったこともあり、予定していた加算取得ができなかったため、来年度での確実取得を目指していく。

・機能訓練については、個々の状態・身体機能に応じた訓練を実施し、自立支援と重度化防止に向けた取り組みを行っていたが、人員不足により2月からの運動の休止となる。ご利用者の方の身体機能低下防止の為、行事での代替の取り組みに努め、身体機能の維持ができた。来年度は運動の再開を目指し、機能訓練の充実を図り利用者の満足度向上を図る。

・リモート研修の参加・ネットでのフォローアップ研修を活用した内部研修を定期的に開催

し、個々の知識・技術の向上を図った。又ミーティングを重ね、他職種連携図り統一したサービスの提供に努めた。来年度も計画的な研修を実施し、職員個々のレベルアップを目指す。

<訪問入浴サービス>

・利用者の状況把握や家族、主治医、ケアマネジャー等との情報共有し、感染対策に努め安全安心な入浴の提供やミーティング・研修を実施し質の高いサービス提供に努めていたが、人員不足により1月から訪問入浴休止となる。

<真心の園ホームヘルパーステーション>

・前年度より職員1名減でスタートした為、前期は収入が上がらず、後期は目標達成を意識し介護の新規受け入れを多く行う事で改善することが出来ていたが、2・3月と身体介護の利用者が数名、入所・死亡・入院が重なり大幅な収入減少となってしまう前年度を上回る事が出来なかった。

・定期的なミーティングを開催することで職員間の情報共有を行うことでチームワークの充実を図る事が出来た。又、他職種への報告を密に行う事で信頼関係の構築は出来たと思う。

・個別計画書を確実に作成し統一した支援を行う事が出来た。

・業務作業改善に向けてシステム移行を計画していたが思うように進まず移行することが出来なかった。

<鳥栖市中央在宅介護支援センター>

・業務継続計画の作成、感染症予防の為の研修やマニュアルの見直しを行い、職員への周知徹底を行った。

・包括支援センターや医療連携室等と、入退院や新規利用の際、情報の共有を行い、新たな支援がスムーズに行う事が出来た。また、新規支援の受け入れが可能である事を随時報告し、新規支援の紹介をもらう事が出来たが、冬季に入り、入所や死亡等、支援終了者が多数あった為、件数の減少が目立った。

・令和5年度は常勤4名、非常勤2名で稼働。職員退職に伴い、支援者の受け入れが出来ず、他の居宅へ依頼が必要であった為、支援件数の減少が見られた。

・市内外の研修へ参加を行い、研修内容の報告を行う事で職員のスキルアップに務めた。職員間で声掛けを多く行い、支援に関する相談や経過報告を随時行い、職員同士が相談しやすい環境作りに務めた。

・ICT関係の補助金対象の可能性があり、新システムへの移行は見送った。

<給食サービス事業>

・配食数・利用者数共に前年度にくらべ、年間 鳥栖地区が2,927食減少、みやき町地区が2,432食減少

- ・利用者数は鳥栖地区が199人減少。みやき町 中止
- ・食材費の高騰また、利用者減少で、厳しい運営となる。
- ・利用者のニーズに合った食事形態の提供、食中毒予防及びコロナウイルス感染予防にも努めた。
- ・利用者の安否確認を行ない、必要に応じて行政等への情報提供を行った。
- ・車両事故に関しては4件(物損事故)、車両点検をし、安全運転を心がけるよう徹底した。
- ・行政より、1食当たり20円増額、今年度1食あたり50円補助金(食材の高騰のため)
(鳥栖市食の自立利用者支援事業補助金交付金 1期 1,640,900円 2期 285,750円)

<鳥栖市鳥栖西地区地域包括支援センター>

鳥栖西地区地域包括支援センターは包括支援センター事業の委託を受け14年目を迎えた。介護・福祉行政の一翼を担う「公益的な機関」として、公正、中立性の高い事業運営を継続して行っている。

地域包括ケアシステム構築に向けて、高齢者の生活を総合的に支えていく為の拠点づくりを目標とし、『住まい・医療・介護・介護予防・生活支援』を一体化に提供できるケア体制を推進に努めた。また、高齢者がそれぞれの住み慣れた地域において、自分らしく安心して暮らしていただけるまちづくりを目指し、各専門機関との連携を取り対応を行った。

令和5年度はコロナ感染も落ち着き、令和5年5月に2類相当から5類に見直された事もあり、地域の活動も再開された。出前講座の依頼も積極的に受け、計20回実施した。各地区の民生委員・区長との関わりを持ち、気になる高齢者世帯へは出向き相談を受け付け、状況に応じて各機関へと繋ぐ事が出来た。令和6年度も引き続き地域に根差した活動を継続していく。

<ケアハウス花みず木>

令和5年度は、月入居率100%、稼働率は92.4%だった。

コロナ感染症は、5類へ移行したが、継続して感染予防対策に努めた。入居者の体調面においては、健康チェック(毎朝の検温実施・必要者の血圧測定)を行う事で、各人の体調の変化を観察することで早期発見に努めた。体調の変化がみられた際は、家族・医療機関・福祉サービスとの密な連携を図った。

介護保険適用者が全入居者の3分の2以上を占めている。各入居者に適した在宅福祉サービスを利用する事で、日常生活に支障をきたすことなく生活を送る事が出来た。

活動行事では、入居者の要望などを取り入れ、要介護者も参加できる環境を作り、自然に親しむ外出行事を実施し、気分転換を図った。又、居室への閉じこもりを防ぐ為、施設内での楽しみ(おやつ作りほか)を取り入れ、ケアハウスの入居者同士の交流も増え、喜ばれている。

<グループホーム和が家>

- ・主治医や訪問看護師との連携により、入居者の体調管理や急変時の対応に努めたが、4月から12月にかけて入院者が1～4名いた。6ヶ月毎に病院や居宅介護支援事業所を訪問し、パンフレットやチラシを配布したが、待機者は3月末現在、5名で少ない。
- ・コロナ5類に変更後、居室入室での面会、外出、外泊を再開し、入居者・家族共に喜ばれている。

<グループホームみどりヶ丘>

- ・入居者の健康管理に常時努め、医療機関等、関連職と密な連携・適宜対応を図った。
- ・入居者・家族の心理面の安定を図る為、定期的な報告と室内での面会を実施した。
- ・入居者が楽しめる様、月毎に内容を考え、行事・レクレーションの実施を行い心身の活性化に努めた。
- ・みどりヶ丘団地の班長と定期連絡を行い、地区清掃や日常の会釈等、信頼・連携・協力体制制作りに努めた。
- ・保育園とは交流は自重し、互いの健康面・安全性を確認しあい、協力体制制作りに努めた。
- ・感染症対策として施設内の環境整備、備品の補充・確保。職員の健康管理。対策会議を行った。

<みどりヶ丘保育園>

- ・延長保育は標準時間利用者がやや増加している。
- ・地域子育て支援センターは地域の子育て中の若いお母さん方に対し、遊びの広場、公民館の出前保育等において育児相談を実施。子育てに悩むお母さん方のよき相談相手となっている。
- ・発達障害児が多くなってきたので、保護者との信頼関係を築き関係機関との連携を密にして早期療育に向けて努めている。
- ・同一敷地内のグループホームとの交流は、新型コロナウイルス拡大の影響で実施できなかった。

<まごころ保育園>

- ・地域枠の利用者が増えて17名（職員枠7名、地域枠10名）の園児を預かることができた。途中退園が2名あったが、1歳児枠を4名に増やしたり、一時預かりを受け入れて、柔軟に対応した。
- ・巡回相談を依頼し、支援を必要とする子どもへの専門的なアドバイスをしてもらい、対応することが出来た。
- ・コロナ禍で実施出来ていなかった運動会を、3年ぶりに開催する事が出来た。

<グランドハウスまごころ>

4年目を迎えた令和5年度は、入居者の介護度の上昇や長期入院にて退去者が相次ぎ、入居待機者の中でも即入居希望者が少なく新規入居の調整がスムーズに進めることができなかった。待機者確保に努めるだけでなく、申し込み後の待機者の近況等を確認すると共に法人内の介護医療連携センターとこまめに情報交換・共有しながらできるだけ空床期間を短くできるように調整していく。施設行事に関しては、コロナウイルス感染対策でしばらく実施できていなかった外出ドライブや花見、クリスマス会を再開、入居者へのサービス内容については、日常生活の支援や健康管理だけでなく、季節にあわせた行事やレクリエーションの提供、また個別の状態に応じた手工芸等の提供も継続できた。来年度も引き続き他部署との連携を密に図り、法人全体で入居者を支援していく体制を構築することで、法人全体としての稼働率アップへ繋がるよう取り組んでいく。

鹿児島事業部

<かせだフレンドホーム>

5月8日からコロナウイルス感染症5類移行に伴い、段階を経て面会、外出、外泊再開することができたことが利用者様にとって最大の喜びであった。外出可能になるまでは利用者様への楽しみをとスタッフより提案あり、中庭で手作りクレープを提供した茶話会や、焼き芋の提供と大変喜ばれていた。

4月より経口維持加算取得により、有馬病院からDr、言語聴覚士に来園いただき、対象利用者様の食事観察と、会議を行い、食事形態、食事時の姿勢、環境、口腔状態等について見直ししている。上期は誤嚥での入院、退所が見られたが下期は見られておらず経口維持への取り組みの成果が少しずつ見られているのではと今後に期待したい。しかし、利用者の平均年齢が65.3歳と高齢化に伴い重症化しているため入退院（延べ人数49人、空所期間900日）、入退所が多い一年であった。

<ケアハウスかせだ>

年間の新規入居者が延7名であり、内訳が在宅から4名、病院から3名だった。退居者6名、内訳が他施設へ3名（うち法人内施設はなし）、家族と同居の方が2名、1名が長期入院での退居だった。年間入居は、99.9%であり、補助金基準日（毎月1日）での入居者は、年間通して満室を維持できた。

今年度は年間延べ入院者が359人（前年比368名減）で大幅に減少した。年齢幅は68歳から96歳となり、平均年齢83.3歳、平均要介護度は1.41となっている。新型コロナ感染の拡大に伴い、これまで以上にきめ細かな健康管理を行ない、心身状況の変化の早期把握と迅速な対応を図った結果、入院者数の減少に繋がった。令和6年1月から定例年間

行事の再開を実施しており、今後もコロナ禍前と同様、入居者が明るく充実した生活を送れるよう、職員一丸となって質の高いサービス提供を行っていく。

<相談支援事業所 彩>

コロナウイルスやインフルエンザの影響も多少あったが、年間を通して概ねスムーズに計画作成やモニタリングを実施することができた。

特定相談支援事業については、実働利用者数が昨年度と比べ4名減となったが障害支援区分の見直し対象となるご利用者が多かったことで計画作成数が20件以上増えた。障害児相談支援事業についても、サービス提供事業所の定員削減等により実働利用者数が昨年度と比べ4名減となったが、9月に相談支援専門員が1名採用となったことで新規の受け入れ依頼数が下半期に入り増え、計画作成、モニタリング件数ともに昨年度より増える結果となった。

相談支援専門員2人体制となったため、新規ご利用者の積極的な受け入れ、これまで取得できなかった加算の取得などに努めていきたい。

<デイサービス事業>

(遊逢)

施設入所により契約終了になる方が多く、新規契約確保に苦慮したが、SNSを活用しての情報発信が1年を経過したことで認知度も上がり、ご家族が直接利用希望されるケースも増え、なんとか定員の利用は確保できた。全体の半分以上のご利用者が入れ替わる変動の大きい1年だった。

スタッフ確保も難しく、休日勤務や時間外労働により負担を強いる期間も長く、他業種から人材確保できたが、育成に時間がかかりスタッフ1人ひとりの負担軽減までは困難な状況であった。

(デイサービス有馬)

昨年度の課題として取り上げた、セレーノの入居者様の入院の長期化による、デイサービス利用回数への影響の最小化に関する対策を行い、昨年度の延べ利用者数5,826人から本年度6,254人と(428回)増加したことは一定の評価ができた。要因としては、入院における地域連携室との情報共有によりセレーノの入院期間の短縮と入退去のタイムラグの短縮によるものと考えている。とは言うもののデイ利用計画日数と実利用の10%程度の乖離がある月も4ヶ月発生しており、7月のコロナ感染症により営業日数の短縮を除いては、1月、2月、3月と入院者の増加や病院内のコロナ感染症発生による入院日数の延長による要因が大きいことから利用者様の健康管理、入院期間の管理、入退去管理が運営内容に大きく左右されるものであるというは明らかなので今後、この要因をコントロールしていけるか収支に直結するものである。以前より取り上げてきたもう一つの課題である

外部デイの利用に関しては、インスタグラムの活用ほか、デイサービス外部利用促進に向けた営業活動、まごころ居宅介護事業所設立による施設間連携によるデイサービス利用促進を柱に外部デイサービス利用者の獲得することで利用人数のさらなる確保を図ることが今後の目標とすべき要点である。

<ほほえみホームヘルパーステーション>

2名での年度スタートとなり不安を抱えながらの歩み出しとなったが、他部署からの応援をいただいたことで利用者様に迷惑を掛けることなく運営を継続していくことができた。7月には正規職員、11月にはヘルパー1名の採用で少ないながらも安定したサービスの提供が行えたことに感謝する。

新規契約13件、利用終了8件、利用休止41件、訪問件数2,120件で月平均訪問件数176件となった。下半期に入り人員確保ができ体制が整いつつあったことから、新規の受け入れを積極的に行ってきた。

<グループホーム金峰やすらぎ館>

・途中採用で職員2名確保することが出来たが、9月2名、12月1名退職しその後の補充ができず、年間通して人員不足となってしまい、研修参加や入居者処遇など思うように出来なかった。

・コロナが第5類となり、面会や外出、外泊を再開したところ利用者様、ご家族の方に大変喜んでいただき少しはコロナ禍以前の生活に近づけることが出来た。館内でコロナウイルスや、インフルエンザウイルスに感染する方もおらず、健康に過ごしてもらえた。

・令和5年度は、持病の悪化や転倒による入院等あり稼働率を高く維持することが出来なかった。また、退居から入居までに時間を要することが数回あった。

<グループホーム椎原館>

・令和5年度は、6月に1名退去。医療処置が必要となり病院に入院となった。5月に1名、6月に1名が入居。在宅から2名の入居。前年度3月退居後、入居が決まらず稼働率が低下した。6月以降満床ではあるが、持病からの入院はあった。

・待機者は11名。在宅10名、他の施設1名。

・5月、他部署より正規職員として職員1名異動。6月、フルタイムパート職退職。7月、正規職員1名入職、パート職員1名退職。8月、夜勤パート職1名入職し当月中に退職。10月、パート職員1名退職、正規職員1名異動、夜勤パート職1名入職。11月、パート職員1名入職。2月、パート職員1名入職。3月、パート職員1名異動。人員が安定せず不足が続く、休日出勤、時間外勤務が増えた。また、入居者対応の質が保てたとはいえない。

・新型コロナウイルスが第5類に移行したので、ご家族の面会、外出、外泊を再開している。

＜グループホーム有馬館＞

今年度は夏に新型コロナウイルスクラスター発生（入居者5名入院。2名施設内隔離。職員4名感染自宅待機。）により今年度の稼働率は95%であった。また入院により入居退居が5名。新規入居者契約締結より入居開始までの日数（空床期間）は平均10日間。前年延べ人数よりマイナス60名。職員動向については1名退職し、法人内移動により1名採用。現在必要人員は充足している。新型コロナウイルス5類分類になり、面会制限解除し外出等の行事や面会、外泊など再開した。また新たに外出企画を実施し心身面の満足度も向上、地域の方々との交流も実施できた。職員研修ではウェブ研修を開始。毎月のテーマごと研修を各自受講できている。また法人内の今年度認知症介護基礎研修（年4回）への参加率も75%で認知症ケアの向上につながっている。

＜有料老人ホーム クオーレかせだ＞

年間の入退居者の合計が44名で、病院から病院への利用者が31名だった。入居後も医療処置やリハビリの必要性があり、協力医療機関である有馬病院のデイケア、訪問看護の利用が多く、主治医もほとんどの利用者が有馬病院である。9月から11月の入院者が多く、10月以降 長期入院から退居者が12名相次ぎ、入居者も7名は確保はしたが、年度末は入居率が80%まで落ち込んだ。前年からすると収支改善については、利用料の値上げ等で改善してきたが、2・3月の入居率の低下で失速してしまった。営業活動は継続的に行ってきたが、待機者を作れるくらいの努力をしていく。

＜有料老人ホーム セレーノ＞

年間の入退去の入れ替えは短期間で実施できたものの、12月以降の入院において、病院の退院判断が長引いたこともあり、1か月を超える在籍になったケースや院内でコロナ感染症発生で入居日が大幅に遅延したこともあり、入院期間が年間223日の延日数になった。入退去の人数は入居者7名退去者10名で、3月退去者に関しては3名、4月9日までに受け入れできているので現在満床となっている。入居経緯において、ご家族様からの紹介が3件うち2件が成約で1件はご夫婦で成約には至らなかったものの施設のサービスや職員の対応に一定の評価が頂いてるものと思う。

令和6年度の価格改定に於いて各入居者様家族への通達の期間を5か月設け、相談を受ける中、負担増による退去者が5名と限定的であったため運営数値に大きな影響を与えることなく令和6年度の運営に突入できる見込みである。